

# ペリー提督の子孫に保命酒献上



右からフレデリックさん、中島専務、岡本専務

## 福山の知名度アップに一役

中島商店 岡本亀太郎本店

福山市鞆地区の特産、保命酒を使った菓子を企画する食品卸の「株」中島商店（福山市御船町1-13-5、中島良昭社長、電084-922-4870）の中島基晴専務と

「ミツボシ保命酒」製造元の「株」岡本亀太郎本店（同市鞆町鞆922-1、岡本憲良社長、電084-982-2126）の岡本良知専務は、江戸末期に黒船で来航し開国を迫ったペリー提督の子孫に保命酒を「献上」するため、

5月21日に静岡県下田市の同寺（松井大英住職）を訪問、手応えを感じている。



福山市草戸町1丁目19-24 ☎(084)926-2580

同寺で開かれた「ペリー提

督応接料理の「再現」の場で

保命酒を振る舞った。中島

専務らは「口

当たりがよく

シェリー酒の

ようだと好評

だつた。保命酒の知名度アッ

プにつながつたのでは」と、

手応えを感じている。

開国記念の地となる下田市

では、毎年「黒船祭」を開催。

5月20-22日に開かれた同祭

に合わせて来日していたフレデリック・ニコルズさんらペリー提督直系の6、7代目子孫計24人が同寺主催の応接料理の再現に招かれるなどを知つた中島専務が松井住職に打診して保命酒の献上が実現した。

保命酒は食前酒として振る舞われたほか、食後のデザートに中島商店が企画した保命酒入りのジエラートやゼリーも提供。食前酒のおかわりを

したり、デザートも平らげてしまうなど、保命酒は国境を越えて評価されたという。

また、中島専務らは下田市

主催のレセプションにおいても地元商工団体らに保命酒と

保命酒関連商品を売り込み、福山をPRした。同市内の飲食店や料亭が保命酒を食前酒として使うことがほぼ決まつたほか、来年の同祭に保命酒関連商品を出展する動きもあるという。

保命酒はみりんに16種類のハーブを漬け込んだリキュールで、300年以上の歴史がある。1854年の日米和親条約締結後、老中主座だった当時の福山藩主、阿部正弘がペリー提督と下田、保命酒を結ぶ要素はそろっている。中島専務らは、保命酒をきっかけに「潮待ちの港・鞆」と「風待ちの港・下田」がより親密になり、さらに海外まで福山の情報を発信することができるようになれば、と今後の取り組みに意欲を燃やしている。